週　報

国際ロータリー第 2660 地区

平成 31 年 4 月　 9 日
第 2842 回例会
第 2425 号

# 豊中ロータリークラブ

広めよう　ロータリーの心　地域とともに

創立 1959 年 6 月 16 日

2018～19 年度
国際ロータリー会長
バリー・ラシン
BE THE INSPIRATION

2018.7～2019.6
会　　長　武枝敏之
副　会　長　谷野桂子
幹　　事　矢口正登
雑誌･広報･会報委員長
森本博明

| 本日（4 月　9 日）のプログラム | 次回（4 月 16 日）のプログラム |
|---|---|
| 「和歌山と私」 | 「地域医療構想」 |
| 卓話担当：小牧義昭 | 卓話担当：眞下　節 |

## ☆会長の時間☆

「新年号“令和”に因んで」　　2018-19 年度　会長　武枝敏之

平成最後の 4 月を迎え世の中は、令和の文字があふれています。来月 5 月には、新しい年号である令和元年がスタートします。私たち豊中ロータリークラブの 60 周年の記念事業も令和元年 6 月 16 日の実施ということになります。

平成を振り返ると様々な出来事が脳裏に浮かびます。昨年暮れの清水寺の 1 年の漢字が『災』でした。平成を通じてやはり忘れてはいけないのは、阪神淡路大震災です。平成 7 年 1 月 17 日 5 時 46 分明石海峡を震源とするM7.3の巨大地震で、近畿圏が広域に渡り大きな被害を受け犠牲者は 6，434 人に達するものでした。その時の恐怖は、今でも思い出され震災の備えは怠らないよう心がけております。東日本大震災の災害も忘れてはいけない出来事でした。テレビ画面に映し出された津波に飲み込まれる風景に自然の力の恐ろしさを教えられました。

南海トラフ地震が近い将来発生するとの予想があります。自然の力を止めることはできませんが被害を最小限にとどめる努力は怠らないようする必要があります。

平成には、嬉しい出来事もたくさんありました。
ノーベル賞の授賞者がたくさん輩出されたことも特筆されます。最近は、京都大学の本庶祐教授や山中伸弥教授などですが、島津製作所の田中耕一博士や小柴昌俊教授の受賞などは平成 14 年の出来事でその後の受賞ラッシュとなったことは記憶に新しいものです。

野茂英雄選手のＭＬＢでの活躍もその後の日本人選手の MLB での活躍につながったことも平成の出来事の一つといえるかもしれません。

最後に先日、天皇陛下の足跡を振り返る『天皇皇后両陛下　ともに歩まれた 60 年』と題した写真展が梅田の大丸デパートでありました。平成を振り返り次の令和が平穏で豊かな社会となることを祈るものです。

**四つのテスト 1. 真実かどうか 2. みんなに公平か 3. 好意と友情を深めるか 4. みんなのためになるかどうか**

事務局・例会場：〒560-0021 豊中市本町 3 丁目 1 番 16 号 ホテル アイボリー内
TEL 06-6858-1551　 FAX 06-6857-0011
例　会　日　時：毎週火曜日 12 時 30 分より
事　　務　　局：10 時～16 時(土日祝を除く)
ＨＰアドレス：www.sun-inet.or.jp/~jtrc2660/
メールアドレス：jtrc2660@sun-inet.or.jp

## 例 会 出 席 報 告☆

| | 第2841回 | 第2838回 |
|---|---|---|
| 例　会　日 | 4月　2日 | 3月　5日 |
| ①会員数 A | 35 | 35 |
| （内出席免除者） | 5 | 5 |
| ②出席義務者数 | 30 | 30 |
| ③出席義務者出席数 | 21 | 20 |
| ④出席免除者出席数 | 4 | 4 |
| ⑤メイクアップ数 | | 4 |
| ⑥出席義務者欠席数 | 9 | 10 |
| 出席率 % | 73.52% | 82.35% |

出席率（前回）＝③+④／②+④出席率（前々々回）＝③+④+⑤／②+④

## ○幹　事　報　告○

・タイの Silom RC より
「GG1863636 終結のお礼」が届きました。
・国際ロータリー第 2660 地区より
「2019-20 年度Ｒ財団地区補助金使用推奨について」
が届きました。

## 掲　示　板

・60 周年記念事業実行委員会
日　時：4 月　9 日（火）　　本日例会終了後
場　所：ホテルアイボリー例会場前
・地区研修・協議会　　4 月 13 日（土）
開会：12:30　※登録開始：12:00 閉会予定：17:00
開催場所：大阪国際会議場 5 階メインホール
〒530-0005 大阪市北区中之島 5 丁目 3-51
・豊中 RC 春の親睦ゴルフ開催案内
日　時：4 月 14 日（日）
場　所：関西カントリー倶楽部
・未来計画委員会開催の案内
日　時：4 月 16 日（火）　　例会終了後
場　所：ホテルアイボリー　例会場前
・第 3 回被選理事会開催の案内
日　時：4 月 23 日（火）　　例会終了後
場　所：ホテルアイボリー　例会場前
・春の RYLA セミナーの案内
日　時：4 月 27 日（土）28 日（日）29 日（月・祝）
場　所：ホテルセイリュウ／枚岡公園／花園ラグビー場
ホスト：東大阪東ロータリークラブ
・春の家族会の案内
日　時：5 月 12 日（日）
～京都先斗町鴨川踊りと八坂・中村楼～
詳しくは本日お配りした案内をご覧ください。
・第 11 回定例理事会開催の案内
日　時：5 月 14 日（火）　　例会終了後
場　所：ホテルアイボリー3F　　例会場

## ・✿4 月 2 日のニコニコ箱報告✿

・誕生日祝いを頂いて
村司、佐川、眞下、宮田各会員
・結婚記念日祝いを頂いて
澤木、小寺、北村、奈須、小牧、渡各会員
・家内の誕生日祝いを頂いて
小寺、奈須各会員
・米山功労者を頂きました。　　奈須会員
・写真を頂いて　　小寺会員

♪本日の唱歌♪

「四季の歌」

作詞作曲：荒木とよひさ

春を愛する人は　心清き人
すみれの花のような　ぼくの友だち

夏を愛する人は　心強き人
岩をくだく波のような　ぼくの父親

秋を愛する人は　心深き人
愛を語るハイネのような
ぼくの恋人

冬を愛する人は　心広き人
根雪をとかす大地のような
ぼくの母親

唱歌担当：渡　達也

唱歌担当：
・ 4 月 16 日　「牧場の朝」　　松本 会員
・ 4 月 23 日　「バラが咲いた」小牧 会員
・ 4 月チーフ：米田会員
・ ◎副幹事・副 SAA 当番◎
・ 4 月副幹事　　山形　進　会員
・ 4 月副 SAA　　小牧義昭　会員
・ ◎親睦委員会受付当番
・ 4 月　9 日　　豊島会員　小牧会員
・ 4 月 16 日　　田中会員　森本会員

**4月2日の卓話**

「ロータリーの奉仕活動を考える　」

卓話担当：畑田耕一

2019年3月20日に豊中千里RCの例会でのアジアチャイルドサポート代表理事池間哲郎氏の「懸命に生きる人々―日本人こそ学んでほしい―」という卓話を聞き、大変興味深い内容であったので、4月2日の週報に詳細な報告記事を書かせていただいた。前週の卓話ではこれをテキストにして池間氏の卓話内容を紹介した後、ロータリーの奉仕活動を世界平和への貢献という立場から考えてみた。これに関連して、池間氏は彼の卓話を「私が今一番望んでいることは貧しい国の恵まれない子どもたちを助けることではなく、日本人特に若者が『自分自身が一生懸命生きること』の大切さを彼らから学んで欲しいということです」と結んでいることをここであらためて述べて置く。

ところで、ロータリーの奉仕の精神の根幹は奉仕活動を通して、地域の、日本の、そして世界の平和に貢献することである。国際的でかつ自由主義的なロータリークラブは、日満ロータリー連合会会長米山梅吉が軍当局の呼び出しを受け「ロータリーの組織は日本帝国に対する反逆である」と極言されるような時代の流れに抗しきれず、協議の結果ついに1940年自発的に解散を申し合わせることになった。日本が開戦へと舵を切った頃の出来事であるhttp://www.morioka-rc.jp/mhist04.html。

筆者は小学校1年生の時に太平洋戦争が始まり5年生の夏に終戦となったのであるが、「世界の平和のため」という言葉は戦争中も使われていた。1941年12月8日開戦の日、小学校1年生の我々に、先生は、日本は「世界の平和のため」に米英と戦うのだと言われた。最初は「勝った、勝った」の大合唱であったが、1943年ごろから次第に雲行きが怪しくなり、日本が勝つことは考えにくくなってきたが、それを口にするものは殆どいなかった。ただ、筆者のまわりには居た。当時、大阪大学工学部の教授であった伯父は墜落したアメリカの飛行機の調査の結果から、これだけの技術を持つ国に日本が勝つことは不可能に近いと断じていた。私立中学の先生をしていた祖父の弟は、新聞社のニューヨーク特派員をしていた頃の体験から、この戦争に勝つことの困難さを教壇から生徒に話し、周りの人たちをはらはらさせていた。それでも、戦後の日本の将来を案じ、それに備えるような能力は、小学生の筆者には無かった。ただ、ただ、無いもの尽くしの日々を、いろいろな工夫をしながら、米機の空襲を心配しつつ送っていた。そんな折、終戦の約2ヶ月前の梅雨の日、われわれ丹比国民学校周辺の先生方を招いて、全校生徒による海軍体操の参観授業が行なわれた。雨の中でずぶ濡れになりながらの体操であった。授業終了後、 検閲に来ていた陸軍中尉が壇に上がり、「君達は非常に上手な体操を見せてくれた。私は大変心強く思った。しかし、体操も大事だが、勉強も一生懸命にやってくれよ。それは戦争が終わった後の世界の平和のためだ」と言われた。先生方には思いもよらない一言であったようであるが、体操はあまり好きで なかった満 10 歳の筆者は、兵隊さんがもっと体操をやれと言うのかと思っていたら、勉強しろと言われたので、大変嬉しかった。「平和のために勉強せよ」という言葉の真の意味は、正直なところよく分らなかったが、言葉そのものは、しっかりと覚えておいた。そして、後年、これがおそらくは日本が間もなく歩むはずの道をすでに見通していたこの中尉さんの、われわれ子供への必死の一言であったのだと思うようになった。終戦の 2ヶ月前に、戦後の日本の進むべき道を、公開の場で子供たちに明確に示してくれたこの兵隊さんの言葉は今も忘れない。

広島と長崎への原爆投下を経て、1945年8月15日の正午、昭和天皇による終戦の詔勅の録音が放送された。その内容は聞き取り難かったが、日本の無条件降伏で戦争が終わったことは、直後のニュース解説で分った。戦争に負けたという無念さはあまり無く、やっと終わったという安堵感の方が大きかった。「本当に残念な負け方をした」という翌日朝礼での校長先生のお話は、空しく耳に響いた。 以上のようなことを、最近、小学校の出前授業で話すようになった。戦争を体験した先生が殆どおられなくなった今、このような話を子供達に伝えるのが自分達の使命と責務と考えてのことである。殆どの子供が言うのは「何故、日本の国民は戦争をしてはいけないということを言えなかったのだろう」 という疑問である。当時の日本の情勢を知らない子供たちにとっては、当然の意見ともいえるが、筆者は、それよりも、今の小学生は民主主義の根本が分っているのだと理解したい。その「民主主義の根本を大事に思う心」を何時までも持ち続けて、必要なときにはいつでも実践に移せる人間に育って欲しい と願っている。国民の一人一人が、その能力に応じて、平成が令和に代わっても国の進路を誤らないために、真実 の心の認識とその実践に努めることである。それが、かの陸軍中尉の「世界の平和のために勉強せよ」 に応える道であると思う。